

足立区立六月中学校

第一回 進路説明会

令和8年5月19日(火)

進路説明会の めあて

今日踏み出す一歩を
何にするか 決める！！

高校を決めるためのヒント

進路選択を成功に導く5つのフェーズ

1 夢を持つ

- ・ 難関大、専門学校、就職など、卒業後のさらに先のビジョンを描く。

2 己を知る

- ・ 自分の性格、特性、得意不得意、許容できる通学時間を把握する。

3 よく調べる

- ・ 学科、学習制度、部活動、費用の違いを徹底的に比較する。

4 計画を立てる

- ・ 中学3年生の限られた時間をどう使うか、スケジュールを組む。

5 自ら決める

- ・ 志望理由を明確にし、学力をつけ、保護者の同意を得て「自分の意志」で決定する。

	学科	優先	費用
コース	✓	✓	□
学習制度	✓	✓	□
部活動	✓	✓	□
費用	□	□	□

■ 東京公校 ■ 私塾校

高校を決めるためのヒント

1 高校卒業後の進路について(夢をもつ)

- ①難関大学に進学する。
- ②一般的な大学に進学する。
- ③専門学校に進学する。
- ④就職する。
- ⑤考えていない。
- ⑥付属校で充実した高校生活を送りたい。

高校を決めるためのヒント

2 高校卒業後の進路について(己を知る)

- ①自分の性格。
- ②自分の特性。
- ③自分の得意不得意。

高校を決めるためのヒント

3 通学時間について（己を知る）

- ①30分程度。
- ②1時間以内。
- ③1時間半程度。
- ④何時間かけてでも。
- ⑤寮も可。

高校を決めるためのヒント

4 学習制度やコースについて（調べる）

- ① 全日制か定時制か通信制か。
- ② 学年制か単位制か。
- ③ 普通科か総合学科か専門性のある学科か。

高校を決めるためのヒント

5 部活動や特別活動について（調べる）

- ①全国大会に出場している。
- ②海外研修やボランティア活動がある。
- ③種類が豊富にある。
- ④部活動や特別活動に興味がありません。

高校を決めるためのヒント

6 様々な違いについて（調べる）

- ①費用や施設等の違いについて。
- ②取れる資格等について。
- ③卒業後の進路について。

高校を決めるためのヒント

7 中学3年、卒業後について（計画する）

どのように過ごすのか？

高校を決めるためのヒント

8 条件をクリアする（自ら決める）

- ①志望理由、志望動機を明確にする。
- ②合格するための学力をつける。
- ③保護者の同意を得る。

高校を決めるためのヒント

9 そのために

「上級学校訪問をする」

高校を決めるためのヒント

9 そのために

- ①都立・私立・国立
- ②高等専門学校
- ③高等専修学校
- ④サポート校（通信制高校との連携校）
- ⑤都立職業能力開発センター

入試制度について

～令和8年度入学者選抜の概要～

入試制度について

Ⅰ 都立高校の入試の種類

推薦に基づく選抜
(推薦入試)

一般推薦

文化・スポーツ等特別推薦

※一般推薦、特別推薦は同時受検可

学力検査に基づく選抜
(一般入試)

第一次募集・分割前期募集

分割後期募集・第二次募集

入試制度について

2 私立高校の入試の種類

- ①単願
 - ②併願優遇
 - ③一般入試
- などがある。

都立高校の 推薦入試について

推薦入試について

Ⅰ 推薦入試の目的と受検資格について

- ①六月中学校の推薦基準を満たす。
- ②各校の示す「本校の期待する生徒の姿」に相応しい。
- ③志望する高校が第一志望である。

推薦入試について

2 本校の推薦基準について

- ①受験（受検）を希望する高校への志望理由が明確である。
- ②行事・委員会・係活動・部活動に積極的に取り組んでいる。
- ③学校のきまりを守って生活している。
- ④3年間の欠席、遅刻、早退が少ない。（高校側の規定に従う）
- ⑤授業態度が良く、意欲的に学習に取り組み、提出物を忘れずに提出できる。
- ⑥1～5のことを進学した高校でも卒業まで継続できる。

推薦入試について

3 推薦入試の合否判定について

必須

- ◆調査書点
(綜合成績の50%以下)
- ◆個人面接点

選択

- ◇小論文点又は作文点
- ◇実技検査点
- ◇学校設定検査点

綜合成績

※『自己PRカード』
は個人面接の資料として活用します。

推薦入試について

注意!

都立高推薦入試に合格したら、必ず入学!

他の高校を受験することはできない!

(都立・私立・国立を問わず)

都立高校の 一般入試について

一般入試について

1 一般入試の合否について

学力検査の得点

調査書点

ESAT-J

総合得点

面接点
小論文点又は作文点
実技検査点 等

総合成績

※面接を実施する学校においては、『自己PRカード』は面接の資料として活用します。

一般入試について

2 学力検査の得点と調査書点の比率

【全日制課程】

募集	学力検査の教科数	学力検査の得点と調査書点の比率
第一次募集・ 分割前期募集	5教科 (国・数・英・社・理)	7:3
分割後期募集・ 第二次募集	3教科 (国・数・英)	6:4

※学校によっては、学力検査に加え、面接、小論文、作文、実技検査を実施する場合があります。

一般入試について

2 調査書点の算出

学力検査	評定を1倍	評定を2倍	評定の満点
5教科	国・数・英・社・理	音・美・保体・技家	65点
3教科	国・数・英	社・理 音・美・ 保体・技家	75点

一般入試について

2 調査書点の算出

例えば、次のような評定のAさんが、学力検査が5教科、学力検査の得点と調査書点の比率が7:3の学校を受検する場合

国	数	英	社	理	音	美	保体	技家
5	3	5	4	3	3	4	5	3

$$(5+3+5+4+3) \times 1 + (3+4+5+3) \times 2 = 50 \text{点}$$

$$50 \text{点} \times 300 \text{点} \div 65 \text{点} = \underline{230 \text{点}} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

一般入試について

3 合格のめやす

足立高校希望のAさんの場合

調査書点…230点

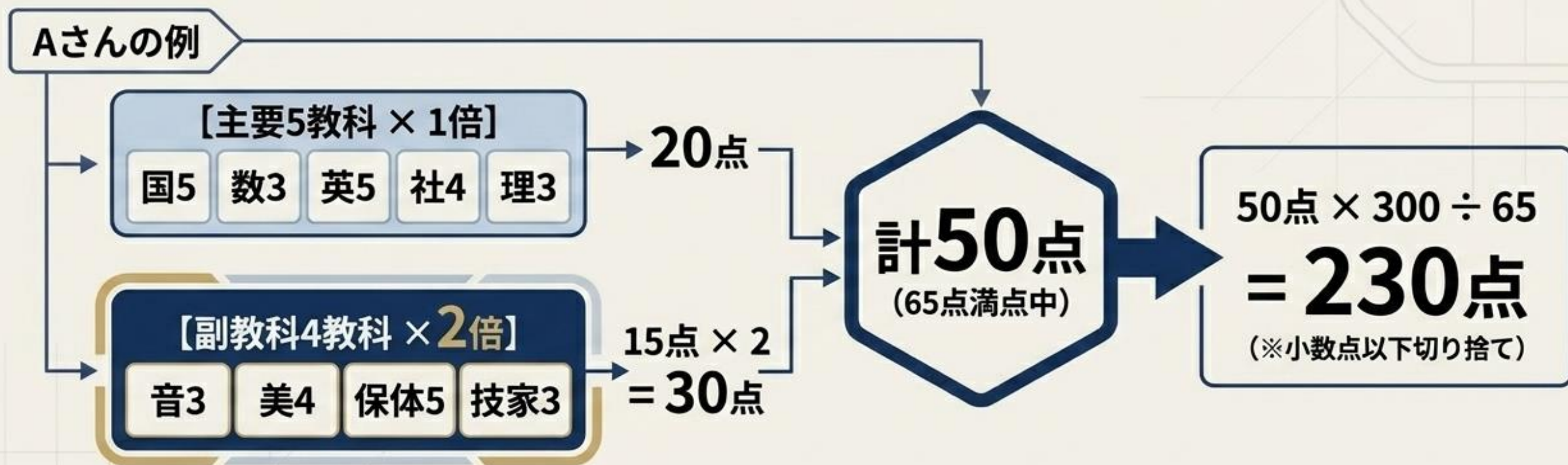
求められる総合得点(合格率60%)…600点

(合格率80%)…630点

必要な入試得点 … $600 - 230 = 370$ **264点**

… $630 - 230 = 400$ **286点**

【ビジュアル方程式】内申点（調査書点）の計算メカニズム



足立高校志望の場合のギャップ分析

合格率60%ライン：総合得点600点

必要な当日点：600 - 230(内申点) = 370点換算

(当日目安 264点)

私立高校の 推薦入試について

推薦入試について

Ⅰ 推薦入試(単願)の受験資格について

- ①六月中学校の**推薦基準**を満たす。
 - ②その高校で**個別相談**を受けている。
 - ③その高校を**第一希望**としている。
 - ④高校側の「**推薦基準**」を満たしている。
 - ⑤12月の**入試相談**(中学校と高校間で)に通している。
- ※多くの場合、面接や作文での試験を実施。

推薦入試について

2 併願優遇入試の受験資格について

- ①その高校で**個別相談**を受けている。
 - ②第一志望（主に都立高校）が不合格だった場合、その高校に**必ず入学**する。
 - ③高校側の「**併願優遇の基準**」を満たしている。
 - ④12月の**入試相談**（中学校と高校間で）に通している。
- ※多くの場合、一般試験と同日に同じ試験を実施。

推薦入試について

3 単願推薦と併願優遇の基準の違いについて

足立区私立高校(総合コース)の場合

単願推薦

- ▶ 5科 **1 8**
- ▶ 評定は**9教科に1**を含まないこと
- ▶ 合格後の辞退は**認めない**

併願優遇

- ▶ 5科 **2 0**
- ▶ 評定は**9教科に2**を含まないこと
- ▶ 併願校は都立・私立を問わない

共通事項

- ▶ 3年間の欠席は原則として**20日以内**

私立高校の 一般入試について

一般入試について

Ⅰ 私立一般入試について

① **優遇措置がなく**入試得点だけで決まる入試。

※多くの場合、難関校で実施。

一般入試について

2 第一希望(志望)入試について

- ①第一希望(合格したら入学金等を払う)であることを条件に入試得点に加点してくれる制度。

※単願推薦や併願優遇がない高校で実施(特に難関校)

私立高校受験の 考え方について

私立高校受験の考え方について

Ⅰ 都立高校が第一志望の場合

- ① 第二志望の私立高校に併願優遇制度がある場合 → 併願優遇
- ② 併願優遇を取るための素内申が足りない場合 → 一般受験
- ③ 第二志望の私立高校に併願優遇制度がない場合 → 一般受験
- ④ ②③の場合は、他の私立高校も受験するか、私立併願可能な高校の併願優遇を取る。(試験日が違うことを必ず確認する)

私立高校受験の考え方について

2 私立高校が第一志望の場合

- ① 第一志望の高校に単願推薦制度があり、
 - a 推薦の条件をクリアできている場合 → 単願推薦受験
 - b 推薦の条件をクリアできない場合 → 一般受験
- ② 第一志望の高校に単願推薦制度がない場合
→ 一般受験・第一希望受験
- ③ ①b、②の場合は、他の私立高校も受験するか、私立併願可能な高校の併願優遇を取る。(試験日が違うことを必ず確認する)

私立高校：戦略を分ける「3つの入試方式」

第一志望向け



単願推薦

- 第一志望専用（合格後の辞退不可）
- 【基準例】5科18以上（9教科に「1」を含まない）
- 12月の入試相談を通し、面接や作文を受験。

すべり止め向け



併願優遇

- 都立等第一志望の「すべり止め」確保
- 【基準例】5科20以上（9教科に「2」を含まない）
- 一般試験と同日に受験。都立不合格なら必ず入学。

実力勝負向け



一般入試 / 第一希望入試

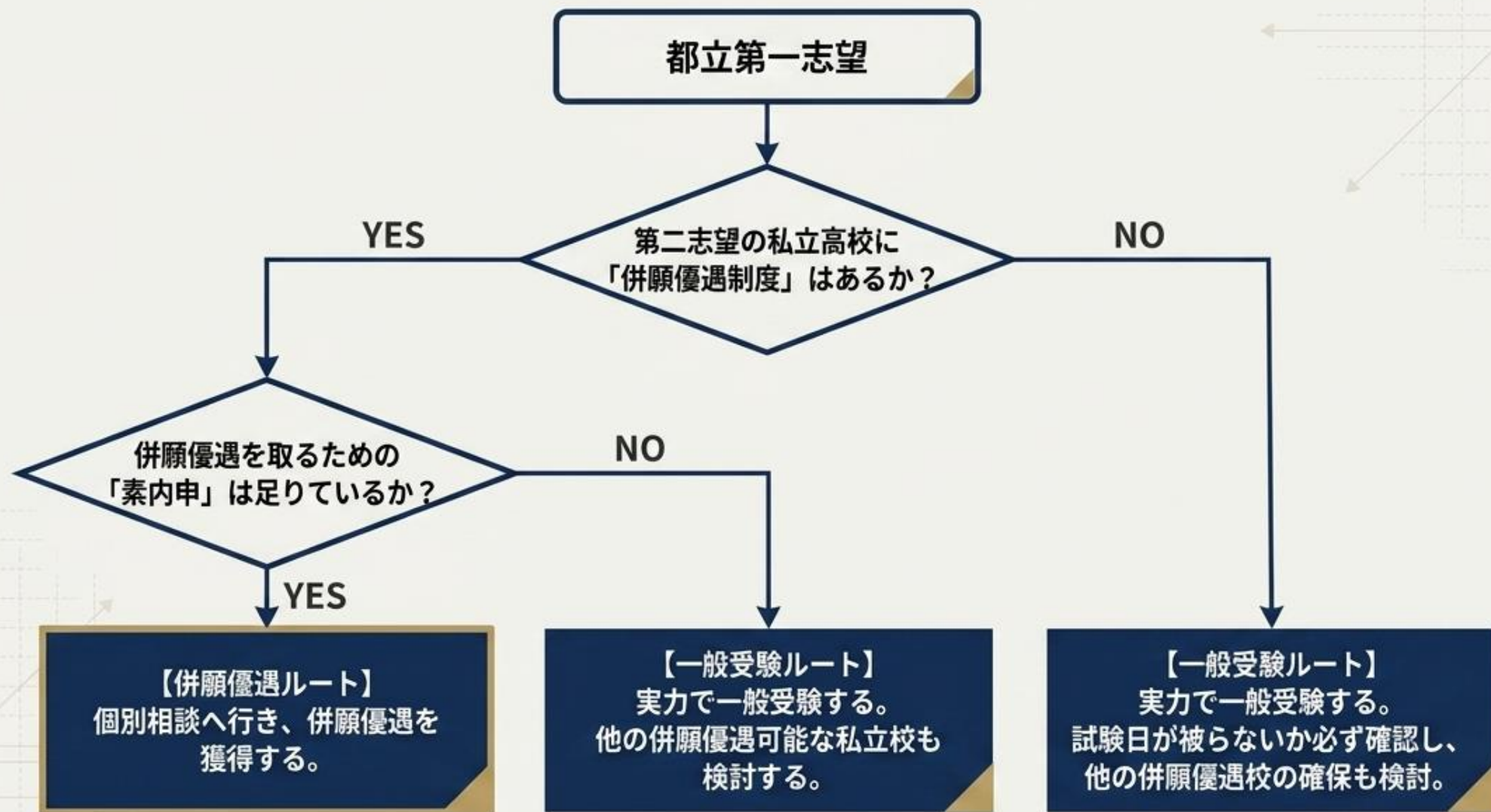
- 優遇措置なしの実力勝負（難関校に多い）
- 「第一希望入試」制度がある場合、入試得点に加点されるシステムも存在。



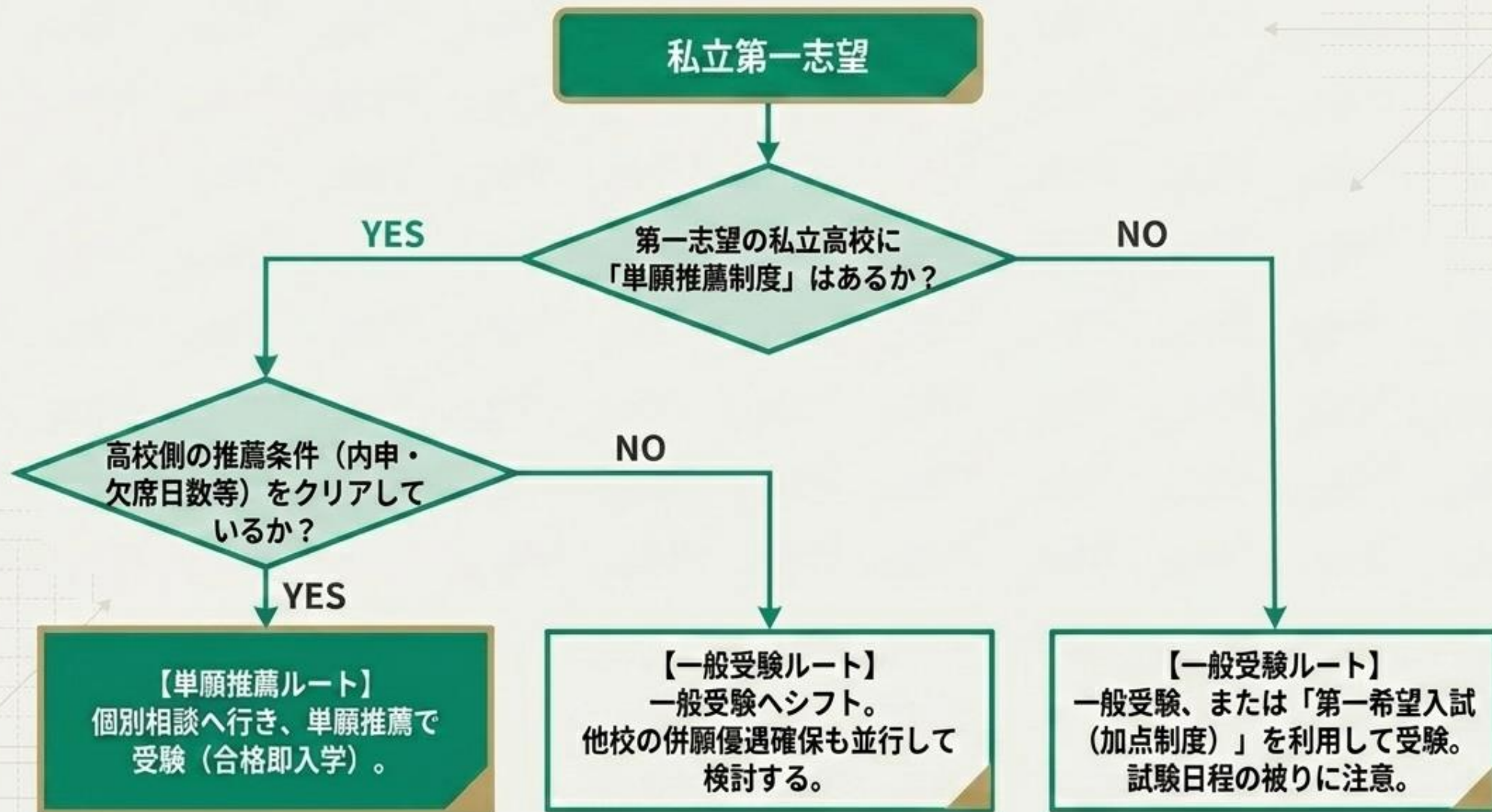
【共通条件】

3年間の欠席は原則として「20日以内」が必須条件（足立区私立総合コース例）。

決断フローチャート①：都立高校が第一志望の場合



決断フローチャート②：私立高校が第一志望の場合



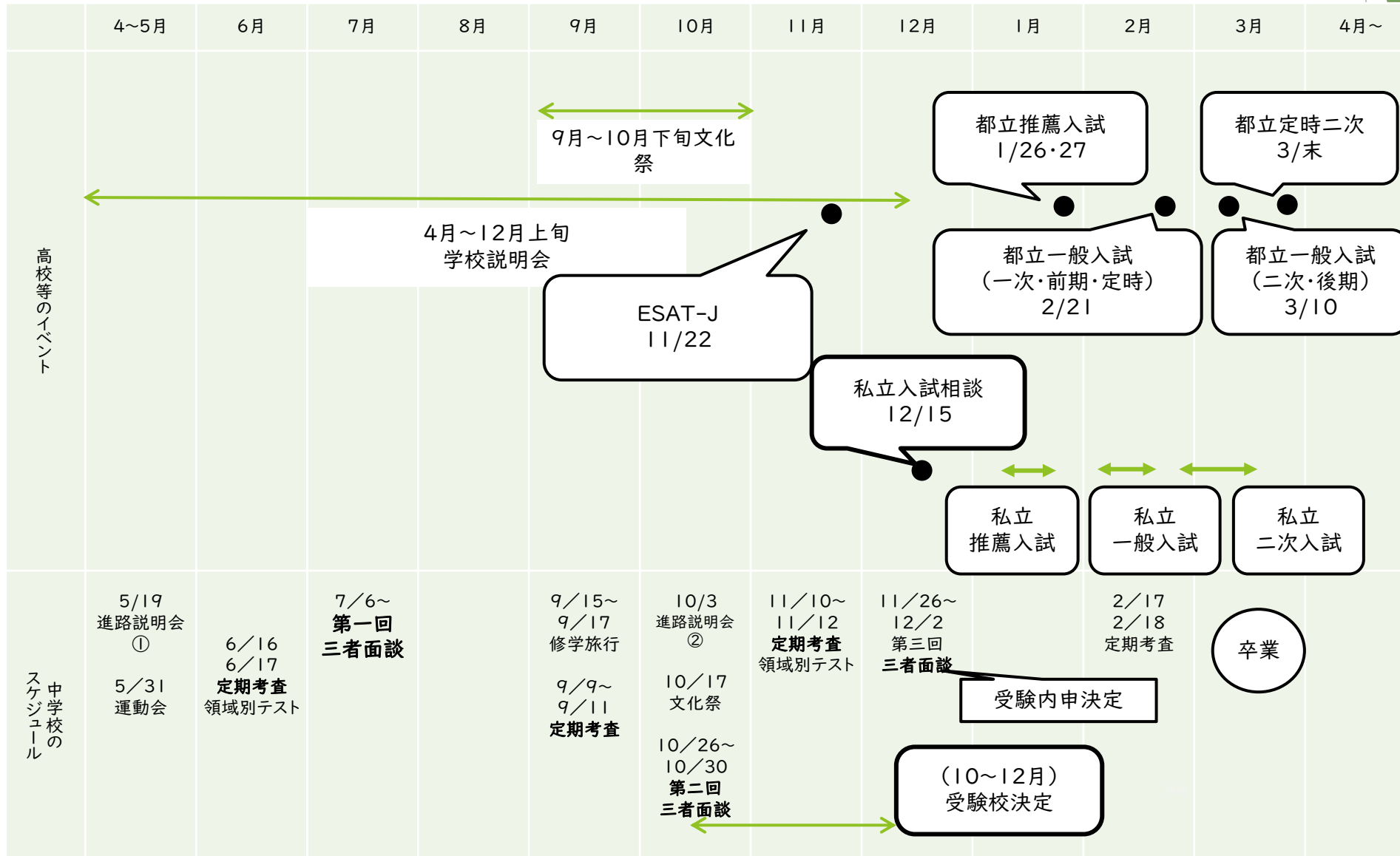
今後の予定とお願い

今後の予定とお願いについて

I 今後の予定

- ①希望の高校の候補を本人と保護者で確認 (第一回面談までに)
- ②受験(受検)予定の高校の説明会等に参加 (夏休み終了までに)
- ③第一志望校の方針〔都立or私立、推薦or一般〕 (前期終了までに)
- ④第一志望校の決定〔前期の成績を確認〕 (第二回面談までに)
- ⑤志望校の最終決定と書類等の確認 (第三回面談までに)

今後の予定とお願いについて



今後の予定とお願いについて

2 近年の動向について

- ①推薦、一次入試において全校インターネット出願。
- ②スピーキングテスト(ESAT-J)の実施。
- ③7:3の学校だけでなく10:0の学校もでてきています。
- ④自己PRカードは面接を伴わない場合は提出が不要に。

今後の予定とお願いについて

3 皆様へのお願い

①学校見学、学校説明会への親子での参加

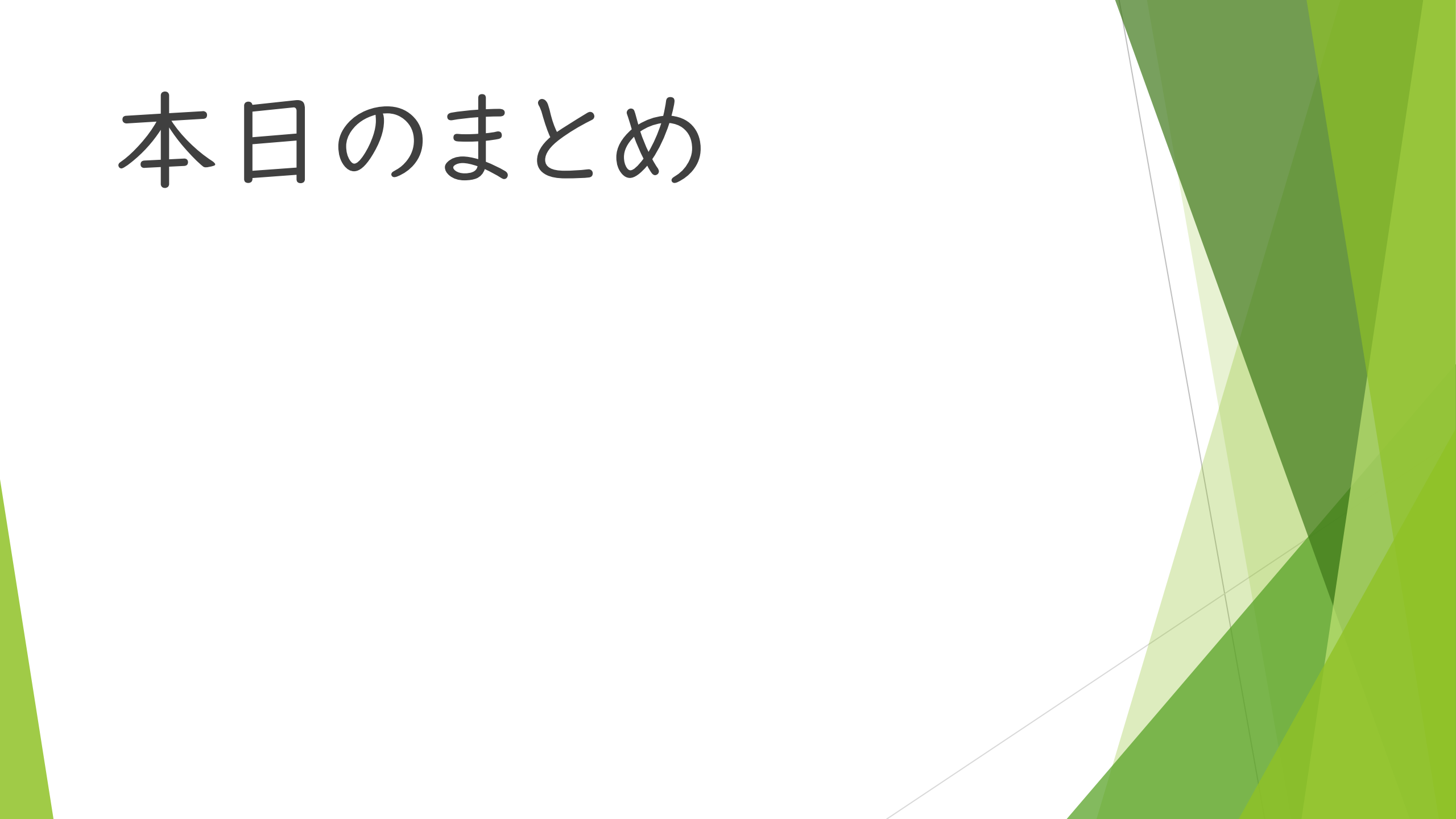
※私立推薦入試を検討している場合は10月中旬までに参加

②都立推薦入試を検討している場合は自己PRカードの作成
と作文や小論文の対策を

本校の推薦基準について R8進路学習部

- ①受験（受検）を希望する高校への志望理由が明確である。
- ②行事・委員会・係活動・部活動に積極的に取り組んでいる。
- ③学校のきまりを守っている。
- ④3年間の欠席、遅刻、早退が少ない。（高校側の規定に従う）
- ⑤授業態度が良く、意欲的に学習に取り組み、提出物を忘れずに提出できる。
- ⑥ ①～⑤のことを進学した高校でも卒業まで継続できる。

本日のまとめ



高校入試ナビゲーション・プレイブック



ご清聴

ありがとうございました。